

# 前線から みなさんへ

～日本エコツーリズムセンター代表理事・広瀬敏通氏による  
「RQ市民災害救援センター活動レポート」より抜粋～



現地活動の体制は一刻も早く支援の手を届かせたい思いの一方で、放射線の危険にどう

かいました。私たちが日本エコツーリズムセンターでは、震災当日の3月11日の時点で、モンベルの辰野会長との間で、協力して支援体制を作ろうという話し合いがまとまり、13日にはRQ(災害救援本部)を結成、わたくし広瀬は救援チーム派遣前の確認のため、14日に福島に向

きました。今回の東北地方太平洋沖地震は、現代日本人が初めて体験する、広域型の大災害です。しかも津波被害は、生活基盤を根こそぎはぎ取ってしまいました。

現地での状況や救援物資のニーズは、まさに刻々と変化しています。皆さんの善意で寄せられた物資を仕分けたり、被災家屋の片付けなどをする人手も必要とされています。

ほかの多くの民間団体やボランティアチームも現地で活動を始めています。彼らとも連携しながら、機動力のある、きめ細かな支援をしようと思っ

ています。対処するのになど、さまざまな課題があります。18日までに先見隊数チームが仙台以南、以北、石巻、女川、南三陸、気仙沼と回り、被災地に物資を配ってました。

3月22日には宮城県登米(とよま)にあられた物資拠点&ボランティア基地が作られました。天童市、初動段階の仙台に続く3ヶ所めの拠点です。3月21日に西表から送られた黒糖は25日の特別便でこの登米BC(ベースキャンプの略)に運ばれているはず!

毎日更新!日本エコツーリズムセンターホームページで広瀬理事の活動レポートがまるごと読めます。  
(<http://www.ecotourism-center.jp>)

## わたしたちがエコセンを支援する理由

日赤や一般の公的義援金は通常、被災自治体などへ寄付され、その後に自治体ごとの判断で支出されます。しかし多くの民間ボランティア団体(国境なき医師団、AMDAなど)の直接的な救援活動に掛かる資金は、これらの義援金には関わらないために、独自の資金源が不可欠です。民間の専門団体による救援活動には多大な資金が必要で、これらはすべて、チーム独自に災害救援基金を設けて、寄付を募ることになります。(以上エコセンメールマガジンより引用)

私たちが送ろうとしている「黒糖」は、初動の段階で被災者の手元に届く時、よりその価値を増します。多くの災害地での活動実績とノウハウの蓄積があり、早い段階から動き出せる仲間たちを現地周辺にも多く持っている「エコセン&モンベル隊」に託すことで、黒糖は「喜ばれる支援物資」になることができると確信しています。

3月28日(月)  
**16箱の黒糖を**  
発送いたしました。

収入……52,711円 支出……50,310円  
前回送付からの繰り越し 黒糖16箱購入  
募金箱への寄付 送料(ゆうパック120サイズ×3)  
募金箱以外の寄付 もちろん同一宛先割引  
&持ち込み割引適用♪

1号

- 今週の三拜去
  - \*もちろん 西表糖業株式会社さま!
  - \*募金箱を置かせて下さった皆さま
  - \*しんぶんを掲示させて頂いた皆さま
  - \*募金箱用容器提供 komenekoさま
  - \*募金箱製作技術指導 匿名希望さま
  - その他多くのおみなさま
- ありがとうございます!  
そして引き続きよろしく!



# 週刊 東北に黒糖を送ろう! 大作戦 しんぶん

毎週火曜日発行予定

募金箱設置場所(3月26日17時現在・順不同)...[東部地区]ラ・ティーダ西表 大原港ターミナル(竹富町観光協会、八重山観光フェリー)[西部地区]スーパー川満 西部歯科診療所 santa nu neene カフェなかゆくい ダイビングチームうなりざき 民宿パイン館 民宿あけぼの館 民宿母家 マリンロッヂアトク キッチンinaba 西表島エコツーリズム協会 紅露工房 イルンティフタテムラ 星砂スーパー 金城旅館[波照間]